

高齢者の身体「動くの大変だ」

磐田で子どもら疑似体験

浜松いわた信金など講座

浜松いわた信用金庫と聖隷福祉事業団(浜松市中央区)は、障害がある子どもたちを対象とした持続可能な開発目標(SDGs)の講座を、磐田市の放課後デイサービス施設「るびなすスクール駒場」で開いた。小中学生20人が参加し、福祉の大切さに触れた。

参加者は、重りや特殊なゴーグルを装着して高齢者の身体能力を疑似体験。「重い」「おじいちゃん、おばあちゃんは大変だ」との声が上がった。手洗いやうがいの効果的な実践法のアドバイスもあった。

同信金と事業団は4年ほど前から小学校や幼稚園でSDGs講座を実施。SDGsはパート



重りやゴーグルを装着して高齢者の身体能力を体感する参加者＝磐田市のるびなすスクール駒場で(浜松いわた信用金庫提供)

ナーシップ(協働)を重視しており、健常者以外にも輪を広げようと昨年12月27日に開催した。(久下悠一郎)